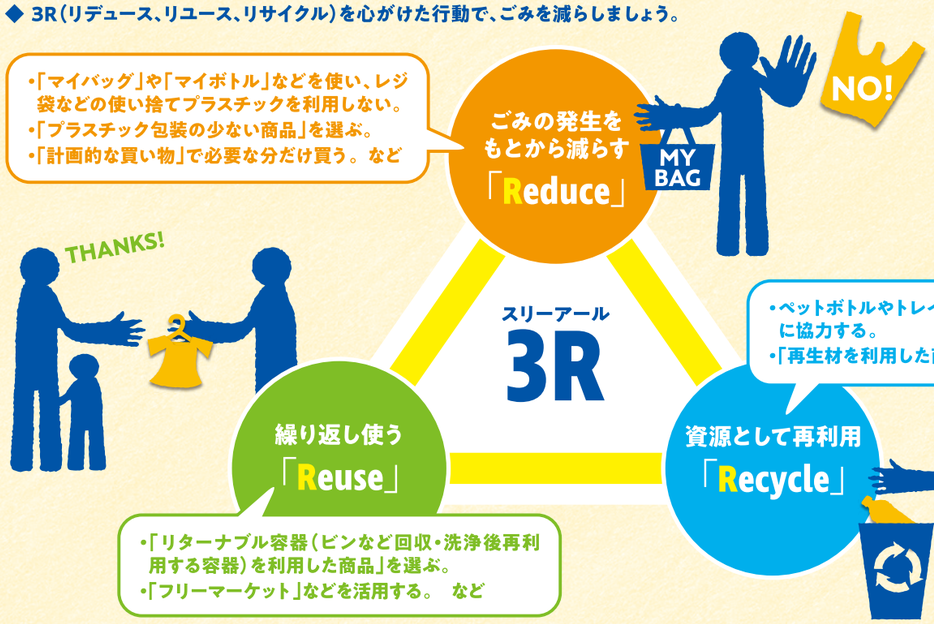
海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて、私たちができること

ごみのポイ捨てをしない、ごみを持ち帰る

◆「街中でポイ捨てされたごみ」や「外出先で放置されたごみ」は、川を通じて海に流れ出てしまうことがあります。ごみのポイ捨てなどは、絶対しないようにしましょう。
◆ 外出先で出たごみは持ち帰りましょう。

ごみを減らす行動を心がける

◆ 私たちの生活の中でごみを減らすことは、プラスチックごみを始めとする海洋ごみの削減にもつながります。
◆ 3R（リデュース、リユース、リサイクル）を心がけた行動で、ごみを減らしましょう。



- 「マイバッグ」や「マイボトル」などを使い、レジ袋などの使い捨てプラスチックを利用しない。
- 「プラスチック包装の少ない商品」を選ぶ。
- 「計画的な買い物」で必要な分だけ買う。 など

- 「ペットボトルやトレイなどの「分別回収」に協力する。
- 「再生材を利用した商品」を選ぶ。 など

- 「リターナブル容器（ビンなど回収・洗浄後再利用する容器）」を利用した商品」を選ぶ。
- 「フリーマーケット」などを活用する。 など

海への影響が少ない製品を使用する

◆ プラスチック製品が風で飛ばされてしまうなど、「意図せずプラスチックがごみになってしまうこと」があります。
◆ プラスチックごみによる海の汚染を無くすため、紙や海洋生分解性プラスチックなど「微生物により分解される素材を利用した製品」を進んで利用しましょう。

海に関心を持ち、清掃活動へ参加する

海岸清掃（蒲郡市）

◆ 国では、ごみゼロの日の5月30日から世界海洋デーの6月8日前後の期間を、「海ごみゼロウィーク」として、全国一斉清掃活動の実施を呼び掛けています。この期間に限らず、街中も含め清掃活動に参加し、海に流出するごみを減らしましょう。

愛知県 環境局 資源循環推進課 一般廃棄物グループ
〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号　電話 052-954-6234

この印刷物は、有害となるVOC（揮発性有機化合物）が発生しない、Non-VOCインキを使用しています。

海ごみからあいちの海を守ろう

～海洋プラスチックごみ問題～

カッパの清吉（せいきち）

佐久島の海岸（西尾市）

海岸は、今・・・

■ 愛知県の海岸には、流木に混じって、ペットボトルやプラスチックトレイなど、プラスチックごみが漂着しています。

■ プラスチックごみの漂着により、景観の悪化や生態系への影響などが懸念されており、海洋プラスチックごみの発生抑制が求められています。

あいちのうみのコト　検索

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

愛知県は「SDGs未来都市」として、SDGsの取組を推進しています。

愛知県

海洋プラスチックごみの原因

増加する海洋プラスチックごみ

◆ 山などに降った雨は、川となり、街を流れて、海に戻ります。近年、この水の流れの中に「街中でポイ捨てされたペットボトル」など、様々なプラスチックごみが、川の流れを通じ海に流れ込むことなどにより、海洋プラスチックごみが増えています。

ごみで溢れる新川河川敷
（名古屋市中川区）

河川のごみの状況

◆ 県が実施した河川ごみ回収調査では、7割が生活系のごみでした。
◆ 生活系ごみの内訳を見ると、ペットボトルや食品容器・包装など「使い捨てプラスチック（ワンウェイプラスチック）」が多くを占めていました。

※平成25年度・26年度 愛知県「河川ごみ回収調査」データより。
パーセントは、回収した全てのごみに占める各ごみの割合を示す。

プラスチックごみの特徴

プラスチックの特徴

西の浜（田原市）に漂着したごみ

◆ プラスチックは、商品の包装や容器、また製品の一部として、様々な分野で利用されており、私たちはその恩恵を受け、快適な生活を営んでいます。
◆ プラスチックは丈夫で成形が容易な素材である反面、環境中に排出されると分解により自然に還ることが困難で、長期にわたり環境中に残ります。

微細化するプラスチック

◆ 海に流れ出たプラスチックごみは、紫外線による劣化や波の作用などにより砕け、微細化し、大きさが5㎜以下のプラスチック、いわゆるマイクロプラスチックに変化します。
◆ マイクロプラスチックは、微細なため、環境中から回収することが大変困難です。

知多郡美浜町（野間海岸）で採取された
マイクロプラスチック

洗顔料中の
マイクロビーズ

東京湾の海水から見つ
かったマイクロビーズ

写真：「海洋ごみ学習用教材」（環境省）掲載
東京農工大学高田秀重教授より

洗顔料の研磨剤など、微細なプラスチックを添加した製品もあり、使用とともに環境中に排出され、マイクロプラスチックになるものもあります。

海洋プラスチックごみによる生態系への影響

生物たちを傷つけるプラスチックごみ

漁網に絡まったウミガメ

写真：「海洋ごみ学習用教材」（環境省）掲載
NOAA（アメリカ海洋大気局）より

◆ ウミガメやウミドリなどの海洋生物が、プラスチックごみを誤食し、また絡まるなどして衰弱し、死に至る事例が確認されています。

マイクロプラスチックの生態系への影響

◆ マイクロプラスチックは海洋を漂う中で、有害な物質を吸着することがあります。それを小魚などがエサと間違えて食べ、その体内に有害な物質が取り込まれるとの指摘もあります。このような小魚を大きな魚が捕食するなど、食物連鎖を通じて、最終的に人が有害な物質を摂取してしまう可能性もあります。
◆ 人が捨てたプラスチックごみが、巡り巡って人の健康に影響を与えてしまうことが、今、懸念されています。